平成25年秋の叙勲

「瑞宝小綬章」

山下　嘉三氏　70歳（43年法卒）
島根県校友会副支部長

昭和38年島根県職員に採用
各課歴任後、県教育次長、県立大学事務局長となり平成14年まで39年間地方自治業務に精励、同氏によれば最も印象に残ることとして
○自治財政に取り組んだ12年
○全ての教育分野に関わったこと14年（公立幼・小・中・高等教育、文化振興、生涯学習）。特に初代（現在4代目）練習船神海丸に携わったこと。
○県立4年生大学開学準備。
○人口定住対策、等々

本県校友会としては43年卒業後から島根県校友会副支部長として、校友会活動に携わり尽力頂いている。伝達式では、業務上お世話になった方々や家族のことどもが思い浮かび万感の思いがあったと言う。現在は陶芸に親しみ、バードゴルフに余念が無い日常である。

（紹介　支部長　坂本育穂）

恵信尼公を学ぶ

樋口　治美

私は今、恵信尼公について勉強しています。恵信尼公は親鸞聖人の奥様です。親鸞聖人には「顕浄土真実教行証文類」を初めとしてたくさんの著作がありますが、ご自分のことは何も書いていらっしゃいません。親のこと、奥様のこと、子供のこと等、自分を含めて個人的なことは何も残していらっしゃいません。子供のことは唯一、息子善鸞が聖人の教えをあやまって人々に伝えた時「今はもう子と思うこと思いきりたり」と義絶状を出していらっしゃいますが、この手紙は写しだけで真筆が残っていないので疑問視されたりします。それ位身内のことは語られないのです。それで親鸞聖人という人は実在しなかったのではないかとさえいわれたことがあります。「親鸞抹殺論」が明治の末から大正時代にかけて言われたのです。それが大正十年西本願寺の蔵から恵信尼公の手紙が見つかって、この恵信尼公こそが親鸞聖人の奥様だということが判明しました。

それまでは九條兼実の娘玉日姫が奥様ということになっていたのです。九條兼実は親鸞聖人の師法然聖人に帰依された方ですから自然に受取れるお話です。でもこれは作られたお話なのです。五天良空というお坊さんが説教のための「談義本」として創作したのです。確かなのはこの恵信尼消息といわれるお手紙です。これは恵信尼公が末娘の覚信尼公に宛てて送られた十通の手紙です。

親鸞聖人は一二六二年十一月二十八日九十才でなくなられました。聖人は一生自坊を持たず、亡くなったのは京都の善法院という弟のお寺でした。末娘の覚信尼がみまもっていました。恵信尼は越後にいました。越後の恵信尼に覚信尼がお父様の最後をしらせたのです。覚信尼の手紙は残っていませんが恵信尼の最初の手紙は「昨年十二月一日付のお手紙は同月二十日過ぎに確かに拝見しました。なにはおいても殿がお浄土にご往生遊ばされましたことは間違いなく、あらためて申すまでもございません」というものです。十一月二十八日に亡くなり二十九日火葬、三十日に納骨して十二月一日にその様子を報らせたのです。

浄土真宗にはお聖教というのがあります。私たち門信徒がよりどころとする書物です。その中にこの恵信尼消息が入っています。私がこのお聖教を手にして仏教無量寿経や観無量寿経、阿弥陀経はむづかしくて、とにかく読めそうなものをと読んだ時、この恵信尼公のお手紙に感激してしまいました。新潟の田舎の一婦人が、流れるような達筆でしっかりした内容に教養の高さがうかがえます。また信心に対する考え方、聖人の心のゆらぎをも感じとれる信仰の深さ、恵信尼公をお手本としなければならない。坊守になって私はそう心に誓い、感激を皆様の前で話しました。ところがそれを聞いた住職が「自分一人で感激している」と言ったのです。この感激をどうしたら客観的に話せるか、それを全うするのが私の役目ではないかと思いました。今は寺も辞めて人様に話す機会もありません。でも何とかして思いを遂行したいと思っています。恵信尼公は現在研究している人はたくさんあります。でも資料がないので間違いのないという線はまだ出ていません。私は現在ある資料を読みこなして自分の恵信尼像を作りあげたいと思っています。何故あんなに感激したのか、それからの私の生きる道になったはずです。それを確かめながらこれからの日々を生きていきます。

完

箱根駅伝応援

幹事長　鈴木　勝

私の新年は、1月2・3日の箱根駅伝の応援で始まる。

小田原市風祭の国道一号線、鈴廣蒲鉾本店隣に陣取り、ピンクの幟旗を持ち、ランナーに声援を送るのが年初めの行事である。かなり長い時間準備して、参加大学のランナー全員が走り過ぎるのが十数分で終わってしまうが、その十数分に大きな声で全力で応援する。その為だけに校友が大勢集い、新年の挨拶もそこそこに応援準備を始めるのである。全ランナーが走り過ぎてから撤収作業を終わらせた後、ほとんどの校友が3日の復路応援の為、小田原のビジネスホテルに移動し宿泊。回りには箱根駅伝参加大学の学生・親族等々、この時の小田原周辺は箱根駅伝一色である。宿泊場所近くで、校友による新年会も恒例になり楽しい一時である。今年は久しぶりにシード権を獲得して、うれしい応援に成ったのは言うまでもない。早い時期に、古豪日大復活を願い、来年も風祭に出かける。

元日本大学通信教育部会長 故 猿渡光氏ご逝去を悼む

副幹事長　斎藤　照夫

去る5月4日元校友会会長猿渡光氏ご逝去の訃報を校友会事務局からの会報第85号発行に伴う協賛広告募集の封書に同封されてきた中に入っていました。5月15日に届きました。松本一夫君に続いて今度は猿渡光さんの親友の訃報を受け非常にびっくりしました。

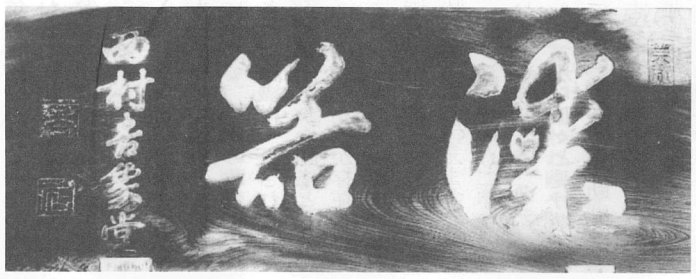
顧みれば、斎藤が昭和45年東大紛争安田講堂のリーダー達を解放、日大学生運動が制圧された後、昭和45年4月中学校で社会科を担当していて世界史、日本史をより深く学ぶために文理学部史学科三年に編入学、夏期スクーリングに出席、昭和20年代六大学野球を神宮球場で観戦ラッキーセブンの応援団学生リーダーに憧れておった青春時代。箱根駅伝のスタート大手町、各大学日大応援団合戦。通信教育部にも応援団があることを知りました。猿渡さんが入学課長でありました。応援団に入部20位の若い学生と40代の斎藤が絆の下に水の覇者。花の精鋭大学節を久恒真佐夫学生課長より指導を受けました。以来猿渡さんの交際が始まり、猿渡さんが通信教育部に在職中校友会会長になりました。新年会、総会、懇親会、関東ブロック埼玉大会（神水館）、埼玉大会（本庄市駅南埼玉グランドホテル会場）、埼玉大会川越会場斎藤が埼玉県支部長当時3回来県市内観光に同行。箱根駅伝の応援で小田原風祭駅下車往路5区復路6区7区への中継鈴広前、鈴木勝副会長幹事長、他役員と共に応援して下さいました。校友会活動で長い交際でした。ご苦労様でした。心よりご冥福をご祈念申し上げます。（猿渡さん84才、斎藤85才）

元埼玉県支部長 故 松本一夫氏ご逝去を悼む

副幹事長　斎藤　照夫

去る5月7日（水）夜8時頃校友会埼玉県支部長鎌子健より松本一夫君のご逝去の訃報の電話があり非常にびっくりしました。翌8日午前松本一夫氏の奥様に電話を掛け羽生駅西口、西部ダイリンで午前11時より告別式が開催されるとの返事でした。病気で入院されている事を知りませんでしたので、非常に驚きました。顧みれば、私が学生時代松本一夫君、故折原純君達と夏期スクーリング中の学部祭芸能大会で法文学部講堂のステージにて埼玉県の郷土民謡秩父音頭を演じました。卒業後、全国で一早く桜門会埼玉県支部を結成。松本支部長、斎藤、折原副支部長、常任幹事、幹事、会計の組織をつくり活動し、会則が通信教育部校友会となったので、埼玉県支部の会則を制定しました。レクリエーションとしてハイキング、マイクロバス旅行と学習指導員として活躍され、支部長を斎藤にバトンタッチされた後に羽生市の公民館長羽生菊の会の会長として地域の発展のためまた、埼玉県支部顧問として新年会、総会にも出席されることがあります。告別式に弔辞を述べご冥福を祈念致しました。

町まちの文字（26）



看板

京都・三条通りにある漆器の老舗の看板。木目のはっきりした分厚い一枚板の看板は、長年の風雪に耐えた貫禄充分の風格があり戦前からのものか。

香川県支部相談役
小西　長之助

出版の紹介

この度、「パリ・ローマを旅する」[1]ローマとパリの一部[2]パリを出版しました。

この紀行文集は、1987年11月に初めて海外を訪ねたときの貴重な体験を綴ったものです。

・本文全236ページの各ページに写真を挿入
・名所旧跡をはじめ、あまり知られていないが歴史的な価値ある場所とかモニュメントの開設
・ルーヴル美術館・オルセー美術館の主な展示作品の解説
・頒布価格［1］［2］あわせて4000円（送料込）
・残部僅少につき、品切れの節はご容赦ください。

香川県支部相談役　著者
小西　長之助

健康は歩行

日大校友会正会員（1135番）　清水　勇男

(一) 吾子は元気だ健康だ
齢はお幾つ忘れたよ

(二) 歩く速度は音頭とり
一・二・三と自己流に
心え刻み歩きます
吾子は老齢高齢者

(三) 学童時代は片道を
二キロメートルした
往復すれば四キロで
それが普通だ学校道
学童相手に急ぎ足

(四) 今ではそれが限界なり
歩けば背中に汗染むむ
汗を流せば健康なり
歩いた後は爽やかなり

日本大学通信教育部長
福田弥夫
日本大学通信教育部事務局
事務局長　**金井保則**
事務局次長　**佐藤和彦**
事務長　**梶一夫**
経理長　**牧顕**
〒101-8354　千代田区三崎町二丁目二番三号
電話　〇三-五二七五-八九〇一

日本大学校友会　副会長
日本大学通信教育部校友会　会長
白戸忠志
〒183-0046　府中市西原町二-二九-一八
TEL　〇四二-五〇二-〇〇九三
FAX

日本大学校友会　常任委員
日本大学通信教育部校友会　副会長・総務部長
日本大学校友会埼玉県支部　常任幹事
肱岡堅一
〒344-0064　埼玉県春日部市南二-四-一六
電話　〇四八-七三八-七一三〇

日本大学校友会　企画委員会委員
日本大学校友会　常任委員
日本大学通信教育部校友会　副会長・幹事長
日本大学東京都第七支部　副支部長
日本大学町田桜門会　副会長
鈴木勝
〒195-0062　東京都町田市大蔵町二九四五-二三
電話　〇四二-七三六-〇〇三四
FAX　〇四二-七三六-〇〇三五
携帯　〇九〇-七二七五-八三三三

株式会社日本大学事業部　管理部長
日本大学通信教育部校友会　副会長・事務局長
鈴木孝司
〒350-0158　埼玉県北比企郡川島町伊草二三四-一
TEL　〇四九-二九七-三六一八
FAX